



ひょうご人権ジャーナル

KIZUNA

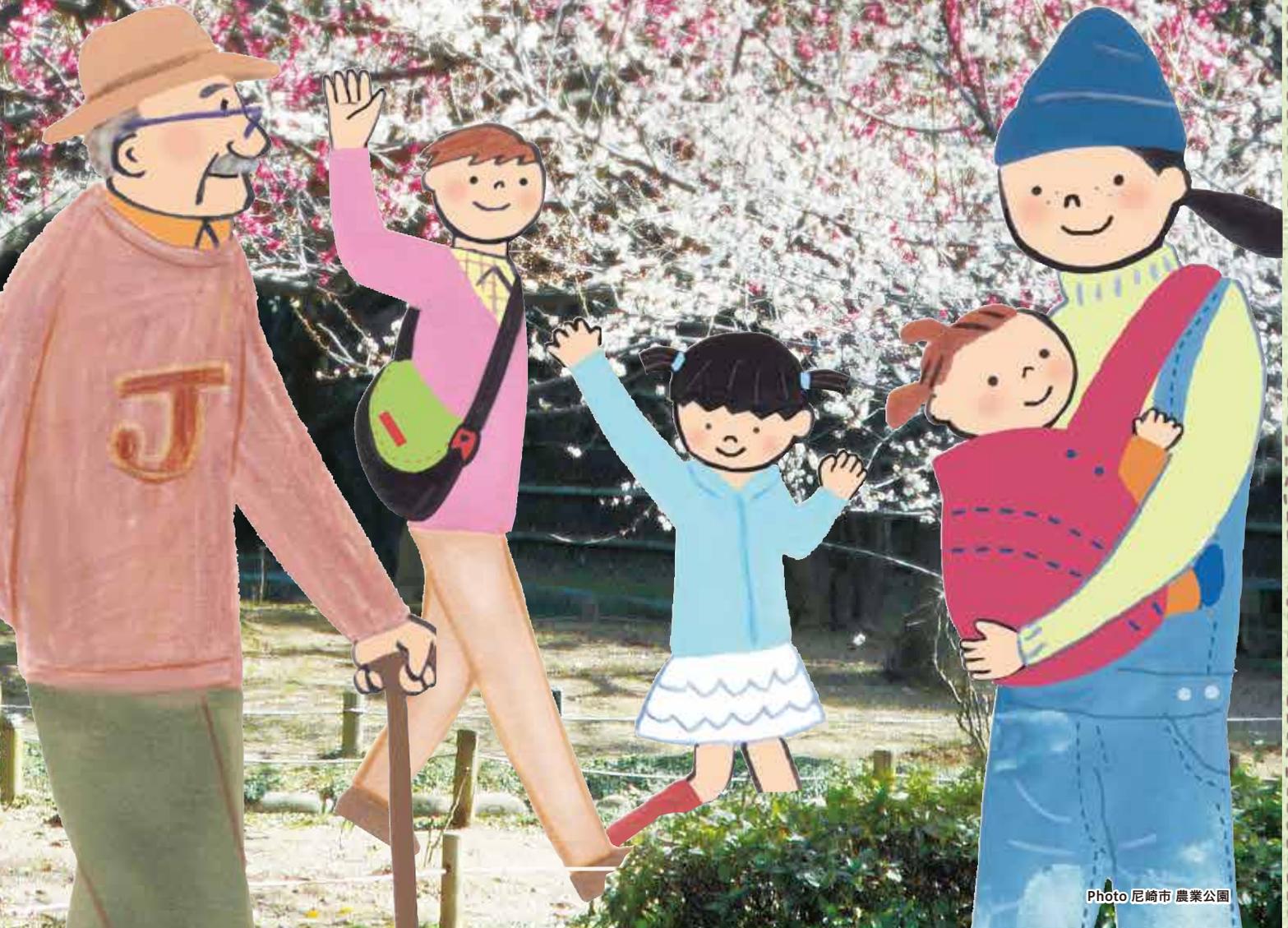
# きずな

特集“いのち”

## わたしもあなたも かけがえのない存在

INDEX

- ② つながるいのち、輝く未来  
平松 愛理さん(シンガーソングライター)
- ③ 魂の叫び  
笹子 三津留さん(兵庫医科大学 特任教授)
- ④ 「(あなたの)いのちが大切」から  
「あなたとわたし(のいのち)が大切」へ  
岩井 圭司さん(兵庫教育大学大学院教授・精神科医師)
- ⑤ 仲間と暮らす、生きがいを感じられる場所  
認定特定非営利活動法人あけび  
グループリビング「あけびの里」(姫路市)
- ⑥ UPDATE! エイズのイメージを変えよう  
公益財団法人 エイズ予防財団(東京都)
- ⑦ 子ども・若者の人身取引・性的搾取さくしゆを  
めぐる問題  
特定非営利活動法人  
人身取引被害者サポートセンター ライトハウス(東京都)
- ⑧ 情報ぷらざ



近年、子どもや高齢者への虐待、いじめなどの人命軽視の事件や自殺など、私たちの周りには、「いのち」に関わる多くの問題が生じています。

本号では、一人ひとりの「いのち」の尊さ、大切さを感じ、ともに支え合える社会について考えてみましょう。

この人に  
聞く!

つながるいのち、  
輝く未来

シンガーソングライター

平松 愛理 さん

Profile

1989(平成元)年デビュー。1992(平成4)年シングル『部屋とYシャツと私』がミリオンセラーとなり、日本レコード大賞作詞賞を受賞。平成のプライダルソングとして、今もお歌い継がれている。1995(平成7)年より阪神・淡路大震災復興支援ライブイベント「KOBE MEETING」を神戸にて毎年1月に開催。現在、新曲制作やライブ、ラジオ番組を中心に、新たな挑戦に取り組むなど精力的に活動中。また「ネスカフェ」のCMソング『La La, Smile』絶賛On Air中。

二度の大きな病を乗り越えた経験について聞かせてください

神戸市出身で、二度の大きな病を乗り越えて活躍中の平松愛理さん。毎年阪神・淡路大震災の記憶を「風化させない」という気持ちで復興支援ライブを開催されています。「生きていたら感じるお互いの気持ちに共感できるものを伝えたい」と、歌に想いを込めて私たちに伝えてくれる平松さんに話を伺いました。

一度目は、デビューと同時に12年間

婦人病と闘いました。一年中痛みのない日はなく、また不妊症につながる病気で、子どもができる事自体可能性はほぼ無いと言われていました。ところが、奇跡が起き

ました。1995(平成7)年の震災の約半年後の



夏に、私のお腹の中に新しい「いのち」が芽生えたのです。どこの病院からも、子どもができないと言われていたので、神戸で志半ばで天国に行かなければならなかった魂が私のところに降りて来てくれた」と、その新しい「いのち」の事を捉えていました。

二度目は乳がんです。一人で告知を受けました。そのあと診察室を出て歩こうとしたら腰が凄く重くなつていてびっくりしました。

でも、私の心には泣ける余裕もありませんでした。「娘のこと、仕事のこと、どうしよう」と思いながら、娘には内緒にしたままで入院しました。手術後、鋭い痛みが、左腕から首までを襲い、生きていること自体が周りに迷惑をかけるから死のうと思えました。一つずつ死ぬ方法を思いついては、右手の指から指折り数えていくうちに、左指を折るくらいの数になり、「私の人生にはまだこんなに選択肢があるんだ」と気付いたら、突然うれしくなってきました。「とりあえず明日まで生きてみよう」と思いました。

「とりあえず明日まで」「とりあえず」と思つて一日一日生きていたら、それまでなんとも思わなかったことに感動したり、感謝したりするようになり、いかに生きようかを考える今日に至りました。

音楽活動や詩の朗読など幅広い活動に取り組み平松さんを支えているものは何ですか

私が発信することで、誰かの心になつたものや、消え去ろうとしていた何か、新たな感情や必要な記憶、時に元氣や希望にもなり得る瞬間があります。発信している側からも言えることで、お客様からエネルギーをいただくこともよくあります。このような尊い瞬間のお陰で、いま私は音楽を続けられているのだと思います。

「いのち」の大切さへの思いを聞かせてください

人間一人に一つの「いのち」。どう扱い、どう捉えるかは人によって様々だと思いますが、それを意識させられるような機会に遭遇した時に、生きていられるだけでそこにすべての可能性がある、と思わせてくれるのが「いのち」。味方につけさえすれば無敵だと思います。

これからも、「いのち」の大切さを想う気持ちを新しい歌にして届け続け、たくさんの人と出会い、笑顔を交わし、人とのつながりを感じていきたいと、今後の抱負を語ってくれました。

# 魂の叫び

私は2016(平成28)年から、ボランティア活動として、「御影がん哲学外来・メディカルカフェこころのともしび」という会を定期的に開催しています。

## 心の痛みを持ち続けて

そこには手術に踏み切れないで悩んでいる方、がんの進行度がステージ4で化学療法中の方、死を間近に感じている方、愛する方をがんで亡くされた方など、様々な方が集います。集まる方々の苦しみは実に多様です。医者から不用意な告知を受けてひどく傷ついた心の痛み、不十分な説明で受けた治療の後遺症や合併症に対する不満など医療者への苦々しい思いを話される方も少なくありません。がんになったのは自分の生活態度が悪かったからと自分を責め続ける方もおられます。また、ある女性は不治のがんで死期

の近づくのを感じながら、夫への積年の不満が押さえきれず、夫に対する怒りを一時間近く、話し続けられました。

死を目前にすると、家族(ことに配偶者)への許せない思いや亡くなった親への過去の不満が時に爆発します。また、親を残して自分が先



兵庫医科大学 特任教授

笹子 三津留 さん

に逝かねばならないことへの自責の念を切々と訴えられる方もあります。逆に、幼い子供を残して旅立たねばならない無念と不安に、自分の運命を呪う方もあります。魂の叫びをたくさん聞きます。

## 心の傷を癒すには

医療訴訟の辛さを語る方もあります。仮に裁判で勝利しても、失われた命・健康や傷つけられた心の傷は癒えません。その人の心の傷も憎しみもお金や正義によつては結局解消しないのです。

人はある人を許せない時、苦しい思いを持ちます。まずその人の行為に傷つき、そしてその人を許せない怒りに苦しみ、やがて許せない自分がいやで苦しみます。三重の苦しみです。これは魂の苦しみです。ですが、人は死が目前に迫ったとき、その思いを持ったまま死にたくない、

和解して、許して死にたいという気持ちが湧いてくるようです。

許せない思いを完全に手放せたとき、心に平安が来ます。当人に許しを伝えられれば、多くの場合、その人は心から許しを請い、大きな愛の中で和解が成立します。

WHOは、身体的、精神的、社会的、そして霊的な痛みを定義しています。この様に人間は霊的な存在であり、その理解無くしては、本当に人を痛みから救うことは出来ないと感じています。



## Profile

1950(昭和25)年西宮市生まれ。県立神戸高校を経て東京大学医学部卒。国立がんセンター中央病院での20年を含め、関東の病院で外科医として40年余勤務。2007(平成19)年に兵庫に戻り、兵庫医大で現役外科医として多くの患者に関わり続けている。その傍ら、自分自身の所属する御影神愛キリスト教会でがん患者、家族のためにボランティア活動を行っている。

# 「（あなたの）いのちが大切」から 「あなたとわたし（のいのち）が大切」へ

兵庫教育大学大学院  
教授・精神科医師

岩井 圭司 さん



今、自殺が社会的な問題となつていますが、兵庫県においては、2006（平成18）年度より、自殺対策連絡協議会等を設置し、幅広い情報発信と関係機関との連携による自殺予防対策の推進に努めてきました。2008（平成20）年には「兵庫県自殺対策推進方策」を策定し、自殺の防止と自殺者の親族等への支援の充実を図ってきましたが、このたび自殺対策基本法（平成28年4月1日改正施行）等を踏まえ昨年12月、「兵庫県自殺対策推進方策」を改定して「兵庫県自殺対策計画」を策定しました。

## いのちが大切

いよいよ平成30年度の春から、3年間の移行期間を経て、小学校において「道徳」がひとつの教科になります（中学校は平成31年度から実施）。その中で重視されている項目の

一つが、「いのちの教育」「いのちを大切に」する授業です。これらのいのちに関する教育は、「いのちの大切さを教える授業」「いのちを大切に」する子どもを育てる教育「心と体を大切に」する思いを高める「いのちの教育」等、他にも様々な名称が用いられています。

いのちを大切にすることを学校で教える、そのことはとても重要で意義あることだと思います。そもそも、「いのちを大切に」することに異論を差し挟む余地はありません。しかし、精神科の医師として私は、「ここで教えて「ちょっとだけ待って！」と言わせていただきたいと思っています。

## あなたが大切

私からひとつだけみなさんに聞かけますので、考えてみてください。「あなたは何かつらいことがあ

て相当に落ち込んでいます。生きていくのがつらい、いっそ死んでしまつた方が楽かも、と感じることもしばしばです。そんなときに、家族や学校の先生など信頼する人物から、『いのちを大切にしよう』『いのちは大切にしないとけない』等と繰り返し言われたら、どんな気持ちがするでしょうか。

どうかみなさん、想像してみてください。人によって答えはいろいろでしょう。なかには、「ああ、自分のいのちを大切にしよう」としていない自分は、だめなやつだ。これでは生きていく価値はない」と思ってしまう人もいます。

実際にこのようなことを口にすると患者さんに、私はよく出会っています。それに加えて、重いうつ状態の人は、「これでは自分のしんどさはわかってもらえないな」という悲

観論にも陥りがちです。

ですから、みなさんも気分が落ち込んでいる人、生きるのがつらいと感じているような人が周りにいたら、「いのちが大切」というのにもう「ひと味」加えて、「あなたのいのちが大切」と思いやりを込めて言ってみてください。その言葉で救われる人がきつというはずですよ。

## Profile

兵庫県立光風病院（現・兵庫県立ひょうごこころの医療センター）、兵庫県精神保健協会こころのケアセンターなどを経て、2004（平成16）年から現職。著書に、『災害とトラウマ』（みすず書房）、『復興と支援の災害心理学』（福村出版）（いずれも共著）ほか。神戸大学医学部客員教授、ひょうご被害者支援センター副理事長。

# 仲間と暮らす、 生きがい 感じられる場所



姫路市飾磨区細江473-10  
TEL 079-262-6702  
FAX 079-262-6703  
URL <http://www.akebi.or.jp>

認定特定非営利活動法人あけび  
グループリビング「あけびの里」(姫路市)



認定特定非営利活動法人あけびは、神経難病(主にパーキンソン病)を抱える人たちの社会参加・在宅生活の自立をめざして、2004(平成16)年に福祉作業所、通所介護施設として活動を始めました。2017(平成29)年4月には、姫路市飾磨区の住宅街に、患者が共に暮らす共同住宅「あけびの里」を開設。長年の夢を実現させた林幸子理事長と入居者の木村美貴子さんに話を伺いました。

## 「自分の望む暮らし」を実現したい

「あけびの里」開設のきっかけは、自らもパーキンソン病患者である木村さんの、「同じ病気の仲間と、家庭的な雰囲気の中で一緒に暮らせる場所がほしい」という願いからでした。現在10名の入居者の方が共に暮らしています。「パーキンソン病の症状のため、引きこもりになりがちですが、同じ病気の仲間と暮らし、悩みを相談したり、話し合ったりすることで、気持ちが変わり、毎日楽しく過ごせる場所になるようにと願っています」と木村さんは話します。

スタッフでもある林理事長は、「本人のできることは本人に任せ、それぞれの希望に応じて支援をしています。入居者のみなさんが望む生活のサポートを心掛けています」と話し、生きがいのある暮らしづくりを支援しています。

## 家族とともに支える

「あけびの里」では、入居者だけでなく家族に

寄り添う支援も行っています。介護のために家族が倒れても、入居者がほったらかしにされてもいけない。また、入居者の自立を支えることが、家族を守ることにつながる。そう考える林さんたちは、家族の思いを聞き、家族と一緒に支援を行っています。

取材の時、ちょうど入居者の家族の訪問がありました。「あけびの里」は家族と共に暮らす家の延長線にあるものとして、入居者が家族との関わりを欠かさず、共同生活を送っています。

## 仲間と過ごす安らぎ

「仲間がいることは、何よりうれしい。ここは、心があたたくなる場所」そう話す木村さんの表情は輝いていました。林理事長は、「木村さん達の存在が、自分の活動のエネルギーになっている」と笑顔で話します。

「パーキンソン病の症状は、見た目にはわかりにくく、困っているも気付いてもらえないことが多いので、まず、病気のことを知って理解してほしい。そして、周囲で気になった人がいたら声をかけてほしい」と木村さんは呼びかけます。

「あけびの里」は、進行するパーキンソン病と向き合いながら、今ある「いのち」を精一杯生きる仲間たちが集い、自分らしく最後まで生き抜きたいと思う場所なのです。

## 3月は、自殺対策強化月間です

兵庫県では、自殺やうつ病等の精神疾患についての正しい知識の理解の促進や、様々な悩みや問題を抱える人のための各種相談窓口を設置し、自殺予防に取り組んでいます。

お悩みのある方は、左記相談窓口をご活用ください。

相談窓口	電話番号	相談日・時間帯
兵庫県 いのちと心のサポートダイヤル	078(382)3566	月～金 18:00～翌8:30 土・日・祝は24時間
働きざかりのSOSダイヤル こころの電話相談室	078(361)6300	3月1日(木)～31日(土) 平日 18:00～22:00 土日祝 13:00～20:00
こころの健康電話相談	078(252)4987	火～土 9:30～11:30, 13:00～15:30
夜間電話法律相談	078(341)9600	3月11, 25日(日) 17:00～21:00 毎月第2・4日曜日実施
自殺予防いのちの電話	0120(783)556	毎月10日 8:00～翌日8:00

# UPDATE!

## エイズのイメージを変えよう

### 日本のHIV流行の状況

2016(平成28)年の新規HIV感染者・エイズ患者報告数<sup>※1</sup>は1448件で、横ばい傾向が続いています。都道府県別に見ると、東京都が最も多く467件、次いで大阪府188件となっています。兵庫県は35件(HIV感染者20件、エイズ患者15件)で9番目の多さです。

日本では、新規報告数のうち、およそ3割がエイズを発症してから見つかっています。したがって、自分自身がHIVに感染していることを知らないでいる人が数多く存在すると推定されています。

### 世界のHIV流行の状況

2016(平成28)年末現在、世界中で3670万人の人々がHIVと共に暮らしています。HIVの流行が始まってから、およそ3500万人の人がエイズによって亡くなったとされています<sup>※2</sup>。2016年の1年間にHIVに感染した人は180万人、エイズで亡くなった人は100万人で、どちらもピーク時より大幅に減少しています。まだまだ大きな問題です。

### UPDATE!

#### エイズのイメージを変えよう

これは、2017(平成29)年の世界エイズデー国内キャンペーンテーマです。アメリカで初めてエイズが発見・報告されてから30数年。この間、治療方法は大きく進歩しました。HIVに感染しても、感染を早く知り、治療を早期に始め、継続することにより、エイズの発症を防いで、感染していない人と同じくらい長く、健康的な社会生活を送ることができるようになっています。また、治療の継続によって体内のウイルス量が減少すれば、HIVに感染している人から他の人への感染リスクが大きく低下することも確認されています。

しかし、現状はそうした変化が正確な情報として十分に伝わっているとは言えず、エイズについては、原因不明で有効な治療法が無く死に至る病であった時代の認識にとどまっている場合が少なくありません。そのことがHIV感染を心配する人たちを検査や治療から遠ざけ、また、偏見や差別を招く要因の一つになっているとも言われています。

公益財団法人 エイズ予防財団(東京都)

エイズはもはや「死の病」ではありません。情報をUPDATE(更新)

して、エイズのイメージを現実に近いづけることは、流行を終わらせるための鍵と言えます。

### レッドリボンのことを知ってください



レッドリボンは、あなたがエイズに対して偏見を持っていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。正しい知識・理解に基づいた感染予防、早期検査・早期治療、そして陽性者を皆で支え合う社会の実現に向けて、レッドリボン運動を広めて行きましょう。

<sup>※1</sup>『2016(平成28)年エイズ発生動向年報』(厚生労働省エイズ動向委員会)  
<sup>※2</sup>『ファクトシート2017年7月』(国連合同エイズ計画(UNAIDS))

### 公益財団法人 エイズ予防財団

1987(昭和62)年に設立、昨年創立30周年を迎えた。HIV感染症・エイズに関して、正しい知識の普及啓発、予防や治療等研究の支援、情報の収集・提供、国際交流の推進等を通じてその予防と蔓延の防止を図っている。エイズ等の流行に影響を受けている人々の人権の尊重と偏見・差別の解消に努めることを目的としている。

連絡先  
TEL 03-5259-1811  
FAX 03-5259-1812  
URL <http://www.jfaf.or.jp>

### きずな映画館

## 君の笑顔に 会いたくても



監督:植田中  
出演:洞口依子、寛利夫。100分。  
4月元町映画館で公開予定。  
(問い合わせ先 元町映画館)  
TEL 078(366)2636

保護司が主人公の映画としては、この作品が初めてのこと。何となく知ってはいても、その実際についてはよく知らない保護司の世界が分かる作品にもなっています。原作者は現役保護司の大沼えり子さん。

宮城県名取市で、罪を犯してしまっただ子どもたちの立ち直りを支援している保護司の香苗。少年院に毎月ラジオ風の音楽番組を届けているDJ保護司でもあります。子どもたちを取り巻く社会のひずみ・虐待、貧困、いじめ、家庭の崩壊に加えて、更生を目指す子どもたちへの社会の無理解の中で、香苗は持ち前の明るさとパワーで立ち向かっていきます。

そんな香苗が、保護観察所から啓太という少年の更生保護を依頼されます。啓太は、東日本大震災の津波で亡くなった息子の、小学生の頃の友だちで、事業に失敗して自堕落になった父親と共に音信不通になっていたのです。香苗は、悩んだ末に引き受け、家族同然に啓太を迎え入れ、自分自身の経営するレストランでの職まで提供します。立ち直りそうに見えた啓太ですが…。

人が生きていくのに、無制限に寄り添ってくれる人の存在の大きさに気づかされる作品です。

# きずな TOPIC

人身取引に関する  
人権問題

## 子ども・若者の人身取引・性的搾取をめぐる問題

特定非営利活動法人 人身取引被害者サポートセンター

ライトハウス(東京都)

人身取引とは、搾取を目的として他人を支配下に置き、売春や労働をさせるといった行為です。日本でも、国籍・性別・年齢を問わず多くの人が被害に遭っています。特に日本は、若者や児童を利用し、性的に商品化する行為が後を絶たず、諸外国や国連から長年批判を受けています。

人身取引の一つである児童買春や児童ポルノ被害の相談は年々増えています。

実は、現在ライトハウスに寄せられている相談の多くはアダルトビデオ産業での強要出演です。ここ数年の間に300人以上の出演被害の相談を受けてきました。被害に遭うのは18歳以上ですが、16、17歳の時に「モデル」と称してスカウトされた子どももいます。撮影が、18歳になった高校在学中に行われることもあります。被害に遭う子どもたちは、アダルトビデオがどういうものかもよく知らないし、契約を結ぶという行為に関する知識も非常に少ないです。契約書や違約金、事前に渡していた学生証のコピーや裸の宣伝材料写真を元に脅され続けた

結果、やむなく出演する場合があります。

人身取引の被害者の声はなかなか相談窓口まで届きません。子どもや若者に限ったことではありませんが、自分に起きていることを犯罪の被害として、「助けて」と声を出すことはとても力が要ります。そんな中、本当に困った時に被害者がそつとLINEなどで相談を寄せてくれた時、私達は一緒に考え、必要であれば病院や行政機関、警察への同行、理解ある弁護士を紹介をします。どうしようもないところまで悪化してしまった時であることも多い現状もありますが、そのような相談が入ってくるのも、私たちライトハウスの支援員が、日々、彼・彼女たちとLINEや電話で繋がりが続いているからだと思います。

性被害の現場では、動画や写真を撮られていることが多くなっています。被害は動画や画像がネット上にアップされた段階で、世界中に拡散されていきます。誰にも見られるべきではない被害の記録が、名前や学校名とともに広がっていくのです。この犯罪が厳しく罰せられ

るような法整備も必要だと思います。

私たちは、実話をもとにした、子どもを性の商品化から守るためのマンガ「BLUE HEART」をつくり、子どもたち自身や子どもを取り巻く大人に問題を知ってもらうことも始めています。私たちが今、人身取引をなくすための行動を起こすことで、子どもや若者たちを守ることに繋がると思っています。



マンガ「BLUE HEART～ブルー・ハート～」(第6版)



相談支援の様子

特定非営利活動法人  
人身取引被害者サポートセンター  
ライトハウス

連絡先  
MAIL info@lhj.jp  
TEL 050-3496-7615  
FAX 020-4669-6933  
URL http://lhj.jp  
※活動への支援を募集しています。  
詳しくはHPをご覧ください。

# 情報ぷらざ information



## あなたの言葉で人権相談ができます -外国語による人権相談のご案内-

外国人権相談ダイヤル(ナビダイヤル)  
TEL 0570-090911  
平日(年末年始を除く)9:00~17:00

外国人のための人権相談リーフレット(6言語対応)が法務省から発行されました。外国人のための人権相談窓口、インターネット相談受付、法務局・地方法務局における調査・救済手続きを分かりやすく説明しています。



<6言語>  
英語(English)、中国語(Chinese)、韓国語(Korean)、フィリピン語(Filipino)、ポルトガル語(Portuguese)、ベトナム語(Vietnamese)

リーフレットのデータ(PDF)は、法務省人権擁護局ホームページに掲載されています。 <http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken21.html>

## EVENT GUIDE イベントガイド



- イベント名** 自殺対策強化月間「こころの健康相談会」
- 日時** 3月7日(水)11:00~16:00
- 場所** 若者しごと倶楽部(神戸クリスタルタワー12階) ※JR「神戸」駅から徒歩5分
- 内容** 就職活動中の若者等のストレスやこころの悩み相談  
対応 保健師・精神保健福祉士

---

- 日時** 3月16日(金)9:30~16:00
- 場所** ハローワーク神戸 ※JR「神戸」駅から徒歩5分
- 内容** 失業等による経済的な問題、ストレスやこころの悩みの相談  
対応 弁護士・保健師・精神保健福祉士

**問い合わせ** 兵庫県健康福祉部のち対策室 TEL 078(362)3060 FAX 078(362)3911  
※その他のイベント情報は、当協会ホームページ「研修会・イベント情報」をご覧ください。

ラジオ関西「谷五郎のこころにきくラジオ」(毎週月曜10:00~15:00)で、14:35頃から「きずな」の記事等を紹介しています。



今月号の取材で認定NPO法人「あけび」を訪問し、林理事長と入居者の木村さんのお話を伺いました。病と向き合う木村さんを林さんが支え、木村さんたちの存在が林さんの活動の原動力であり、やりがいを生むという言葉に、お二人の強い心の絆、命の絆を感じました。自分の言葉や行動で、誰かを支えることができることは、とても素晴らしいことだと思います。そのような支え合いの輪が広まり、一人ひとりが大切にされる社会づくりについて、「きずな」を通して読者の皆様と考えていきたいと思ひます。来年度もよろしくお願ひいたします。(西村)  
\*きずな4月号の発行は4月初旬予定です。

「きずな」は、当協会ホームページからもご覧になれます。



(公財)兵庫県人権啓発協会 〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内  
TEL 078(242)5355 FAX 078(242)5360 info@hyogo-jinken.or.jp

兵庫県人権啓発協会 検索